

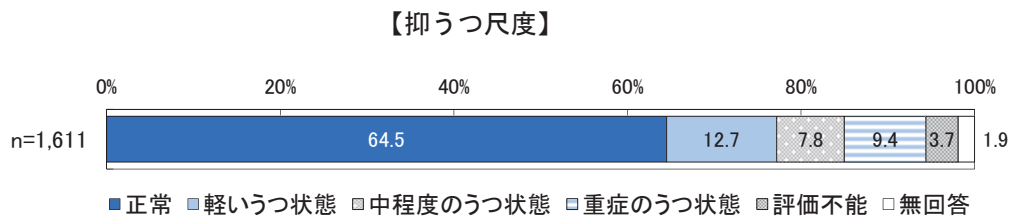
### Ⅲ 抑うつ尺度と死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無についての結果

#### 1 抑うつ尺度の状況

日頃のからだや心の状況をより細かく分析するため、抑うつ状態の尺度として質問項目にCES-D（日本語版）を用いた。

なお、質問項目のうち、5項目以上無回答がある場合は評価の対象外としている。

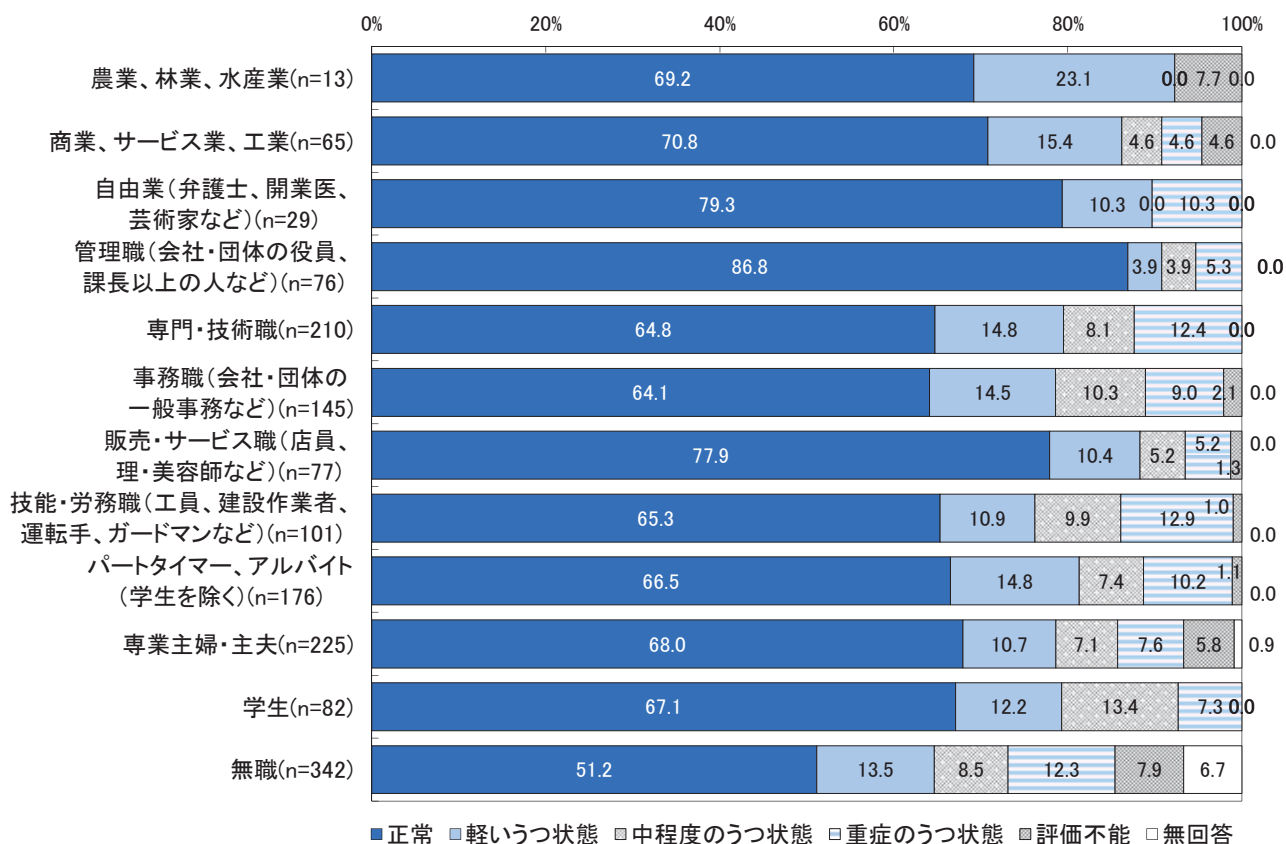
\*CES-Dは、簡単に使用できる抑うつ状態の自己評価尺度としてアメリカで開発された手法である。このテストでは、感情要素を「普段はなんでもないことがわずらわしい」や「食べたくない、食欲が落ちた」などのマイナス要素16項目と「他の人と同じ程度には、能力があると思う」などのプラス要素4項目の計20項目を0点から3点の4段階により評価し、その総得点（最高得点は20項目×3点で60点となる。）から4段階（16点未満：正常、16～20点：軽いうつ状態、21～25点：中程度のうつ状態、26点以上：重症のうつ状態）で評価する。



抑うつ尺度について、「正常」に該当する人の割合が64.5%、「軽いうつ状態」に該当する人の割合が12.7%、「中程度のうつ状態」に該当する人の割合が7.8%、「重症のうつ状態」に該当する人の割合が9.4%となっている。

(1) 就業状況との関係

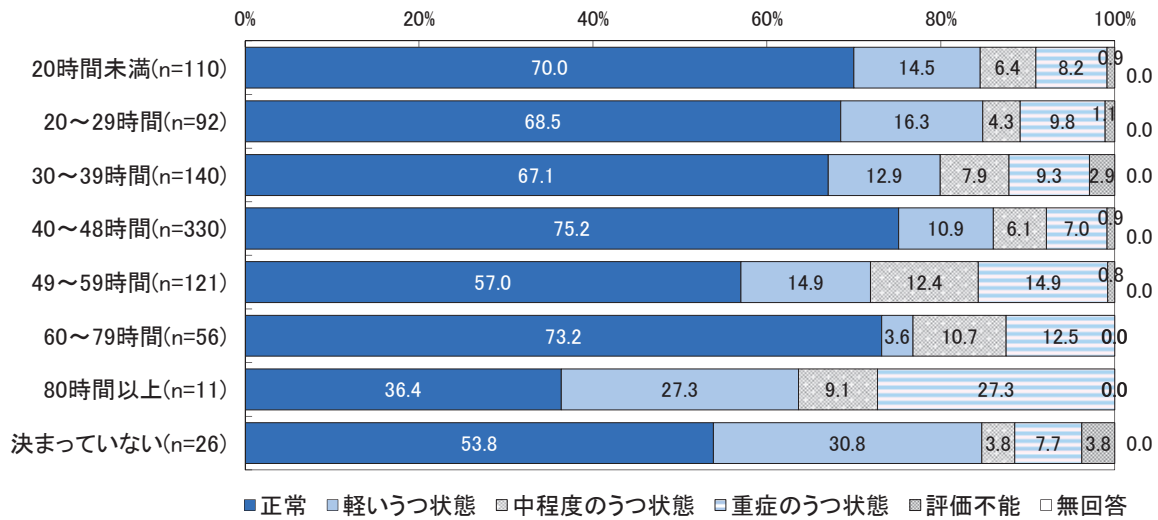
【抑うつ尺度（就業状況別）】



就業状況別にみると、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は、「自由業（弁護士、開業医、芸術家など）」、「専門・技術職」、「技能・労務職（工員、建設作業員、運転手、ガードマンなど）」、「パートタイマー、アルバイト（学生を除く）」、「無職」で1割を超えている。

(2) 1週間の就業時間との関係

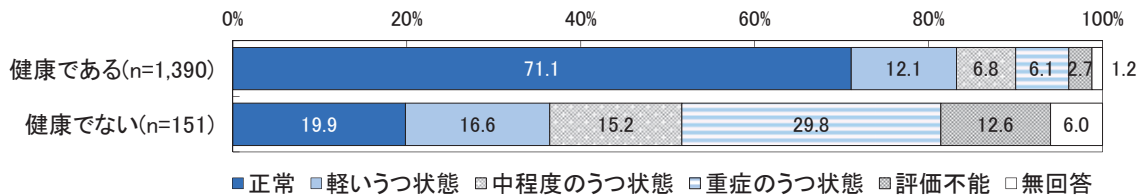
【抑うつ尺度（1週間の就業時間別）】



1週間の就業時間別にみると、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は、49時間以上の人で1割を超えている。

(3) 現在の健康状態との関係

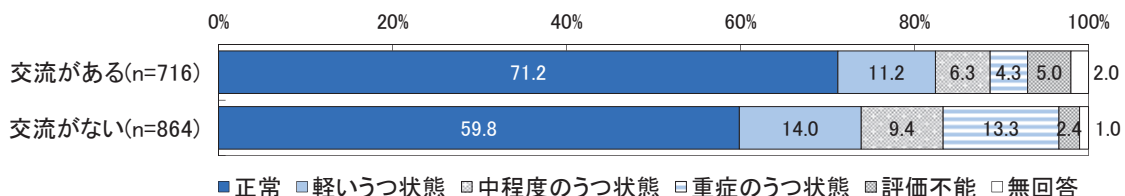
【抑うつ尺度（現在の健康状態別）】



現在の健康状態別にみると、健康でない人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は約3割となっている。

(4) 町内や地域の人との交流機会との関係

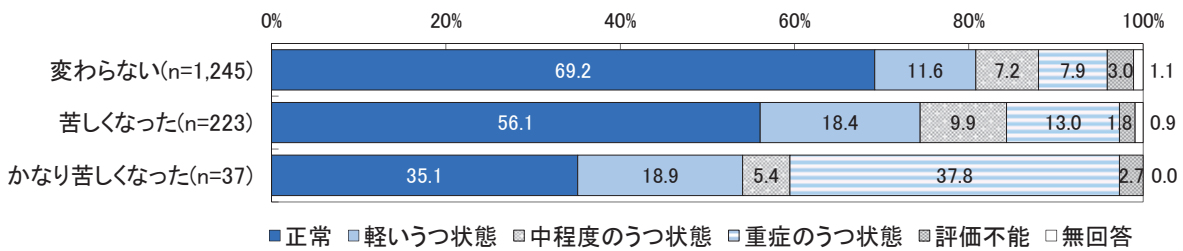
【抑うつ尺度（町内や地域の人との交流機会の有無別）】



町内や地域の人との交流機会の有無別にみると、交流がない人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は1割を超えている。

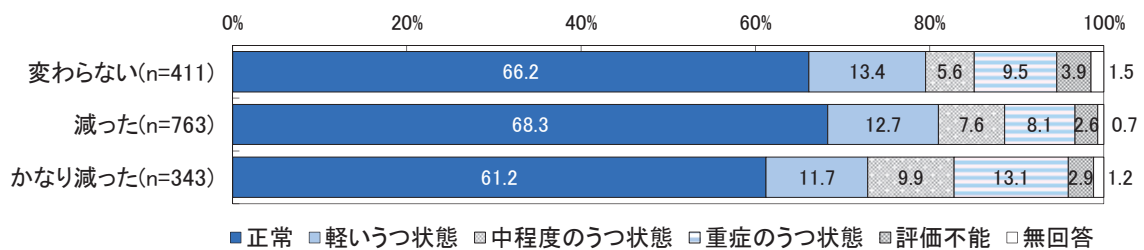
(5) 新型コロナウイルス感染症の流行による、生活や人とのつながりの変化との関係

【抑うつ尺度（暮らし向きの変化別）】



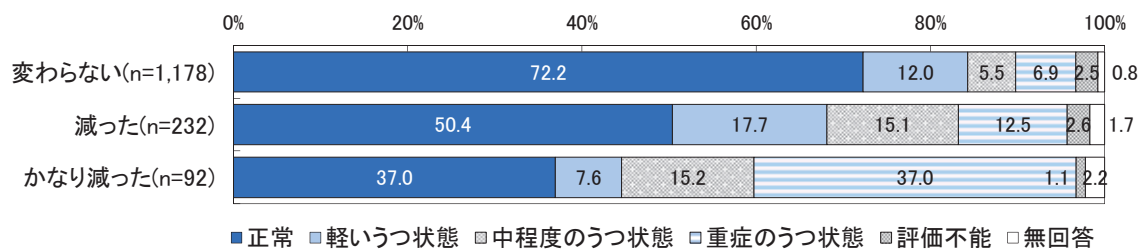
新型コロナウイルス感染症の流行による暮らし向きの変化別にみると、暮らし向きがかなり苦しくなった人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は3割台後半となっている。

【抑うつ尺度（外出の頻度の変化別）】



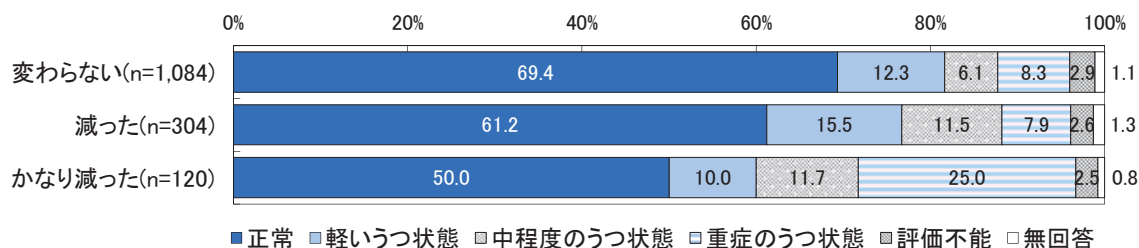
新型コロナウイルス感染症の流行による外出の頻度の変化別にみると、外出の頻度がかなり減った人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は1割を超えている。

【抑うつ尺度（個人的なことを話せる友人とのつながりの変化別）】



新型コロナウイルス感染症の流行による個人的なことを話せる友人とのつながりの変化別にみると、個人的なことを話せる友人とのつながりがかなり減った人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は3割台後半となっている。

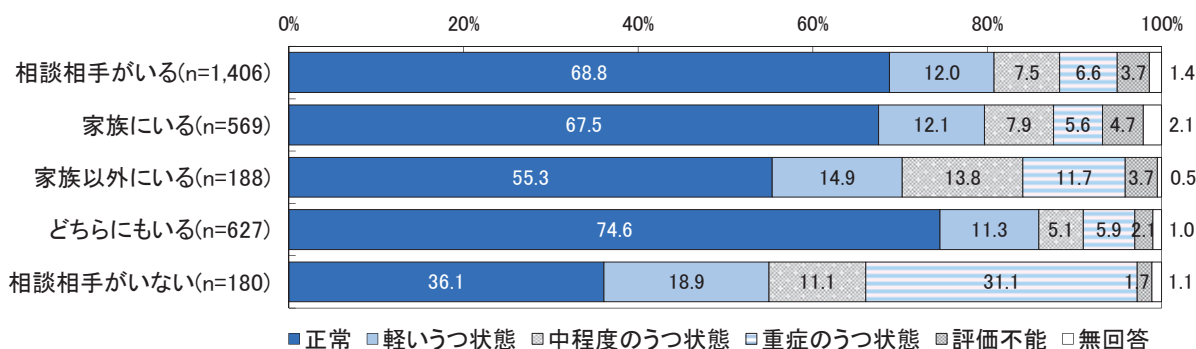
【抑うつ尺度（近所の人との交流の変化別）】



新型コロナウイルス感染症の流行による近所の人との交流の変化別にみると、近所の人との交流がかなり減った人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は2割台半ばとなっている。

(6) 相談相手の有無との関係

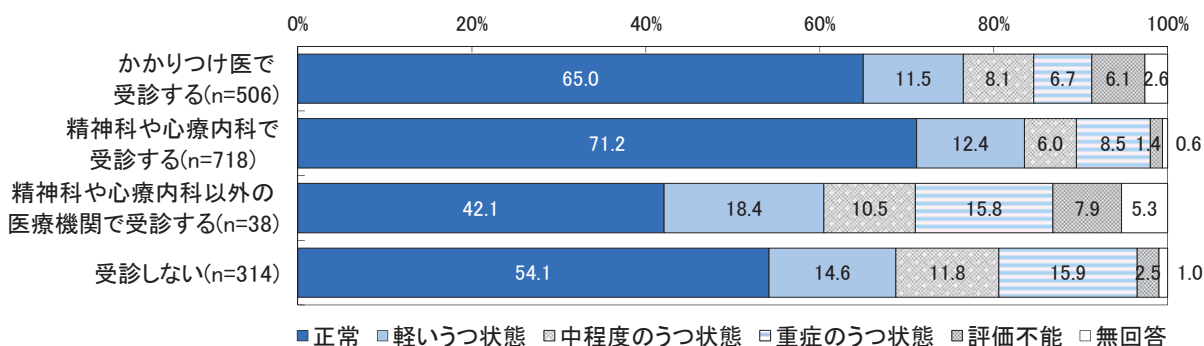
【抑うつ尺度（相談相手の有無別）】



相談相手の有無別にみると、相談相手がない人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は3割を超えている。

(7) うつ病になった場合の医療機関の受診意向との関係

【抑うつ尺度（うつ病になった場合の医療機関の受診意向別）】

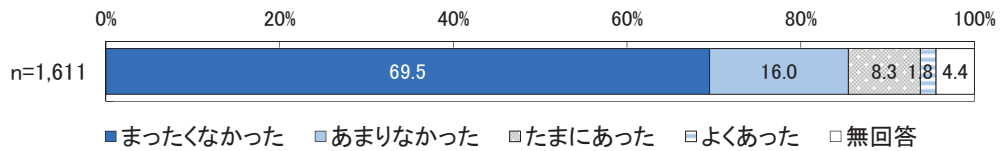


うつ病になった場合の医療機関の受診意向別にみると、受診しない人では、「重症のうつ状態」に該当する人の割合は1割台半ばとなっている。

## 2 死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無

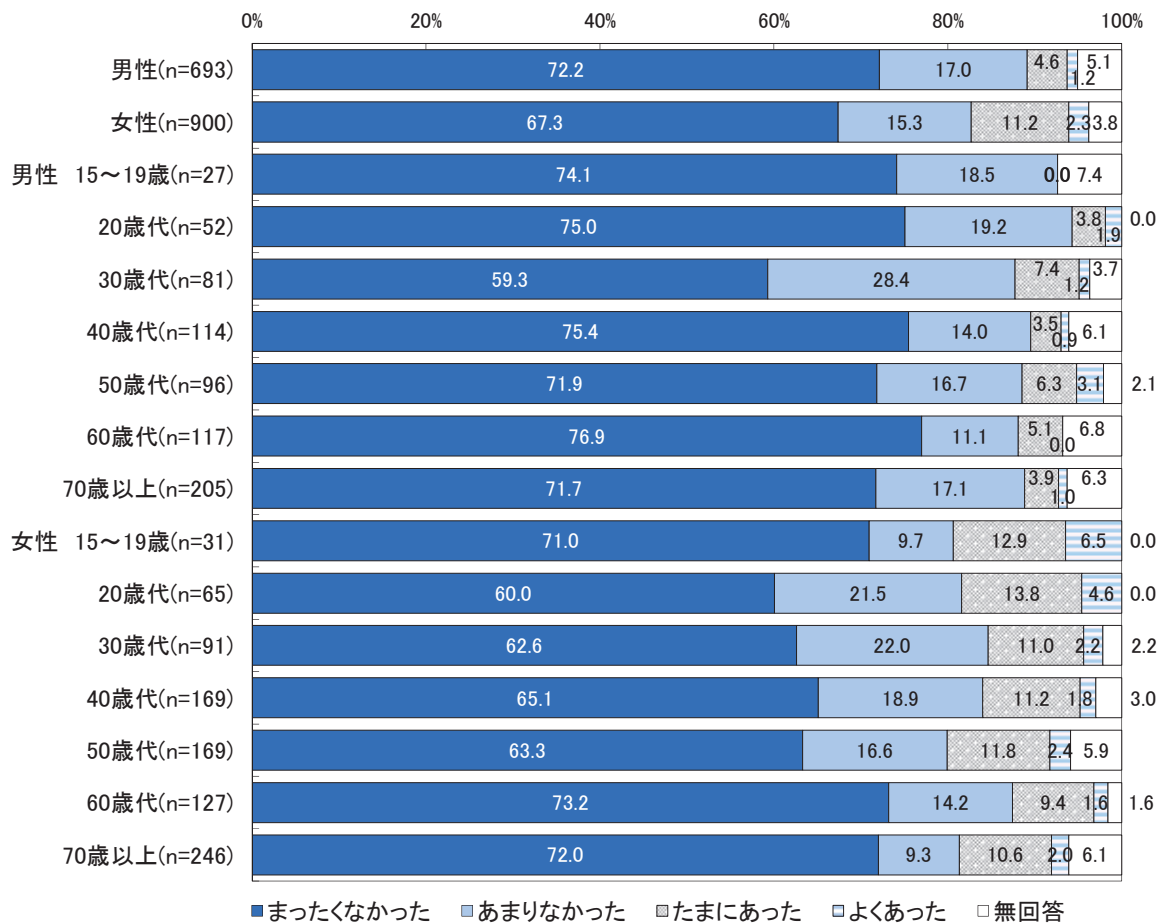
問 11 あなたは、この6か月の間に「死にたい」と思うほどの悩みやストレスがありましたか。

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無】



死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無について、『なかった』（「まったくなかった」＋「あまりなかった」）と回答した人の割合が 85.5%、『あった』（「よくあった」＋「たまにあった」）と回答した人の割合が 10.1%となっている。

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（性別、性・年齢別）】

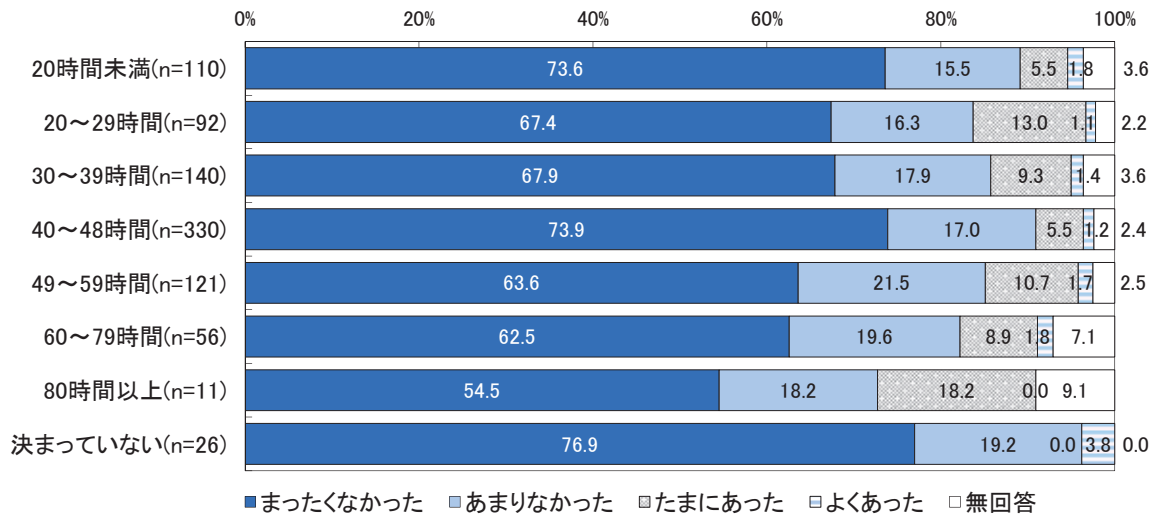


性別にみると、『あった』と回答した人の割合は、女性で1割を超えている。

性・年齢別にみると、『あった』と回答した人の割合は、女性 15～19 歳、女性 20 歳代で1割台後半となっている。

(1) 1週間の就業時間との関係

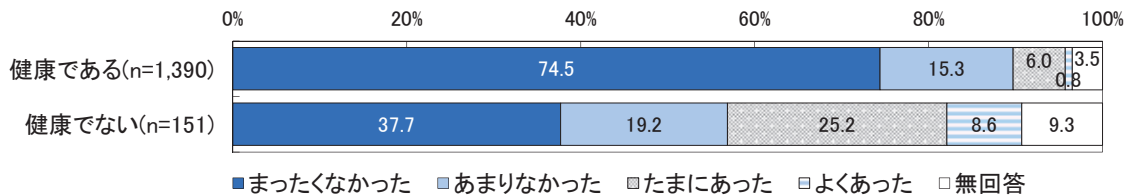
【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（1週間の就業時間別）】



1週間の就業時間別にみると、『あった』と回答した人の割合は、80時間以上の人で1割台後半となっている。

(2) 現在の健康状態との関係

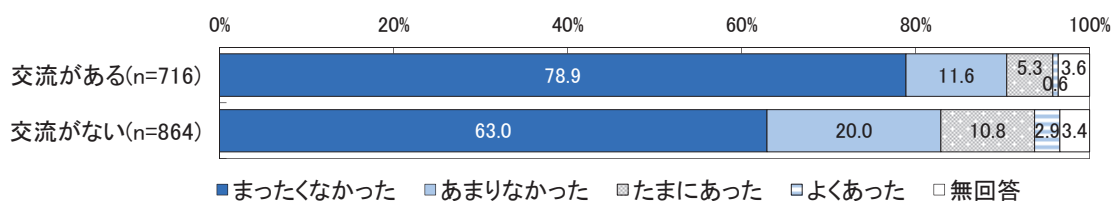
【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（現在の健康状態別）】



現在の健康状態別にみると、健康でない人では、『あった』と回答した人の割合は3割を超えている。

(3) 町内や地域の人との交流機会との関係

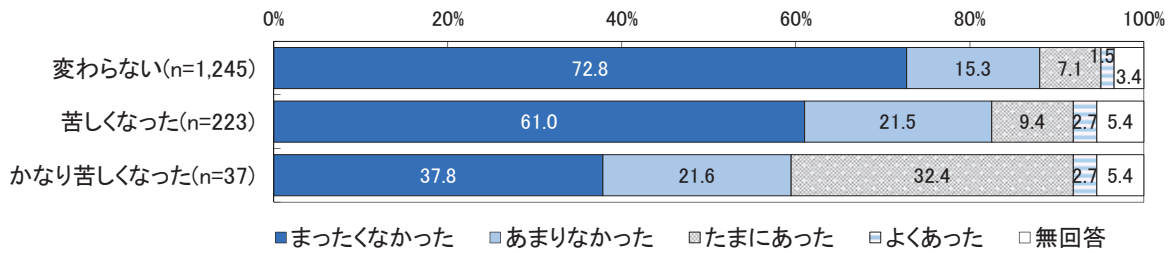
【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（町内や地域の人との交流機会の有無別）】



町内や地域の人との交流機会の有無別にみると、交流がない人では、『あった』と回答した人の割合は1割を超えている。

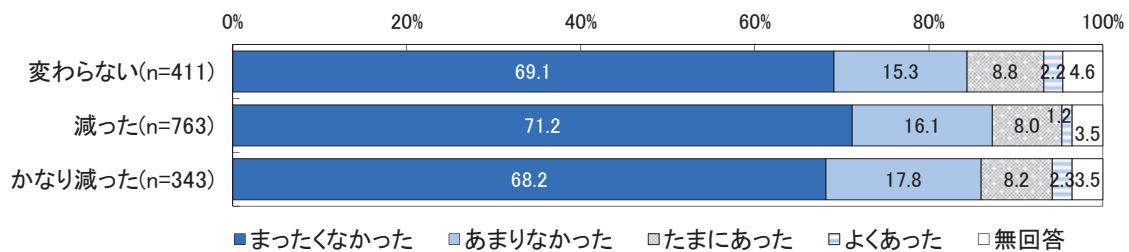
(4) 新型コロナウイルス感染症の流行による、生活や人とのつながりの変化との関係

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（暮らし向きの変化別）】



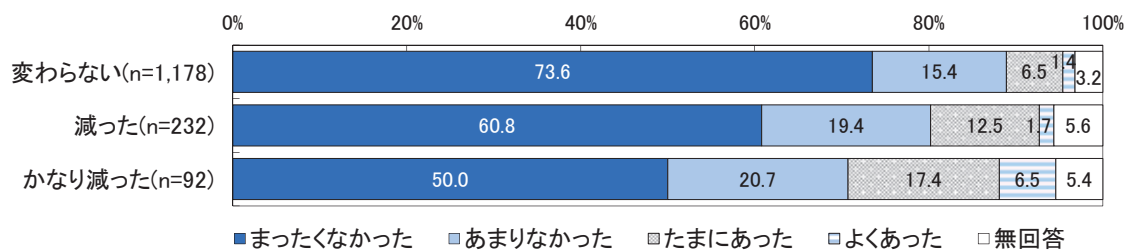
新型コロナウイルス感染症の流行による暮らし向きの変化別にみると、暮らし向きがかなり苦しくなった人では、『あった』と回答した人の割合は3割台半ばとなっている。

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（外出の頻度の変化別）】



新型コロナウイルス感染症の流行による外出の頻度の変化別にみると、『あった』と回答した人の割合は大きな差はみられない。

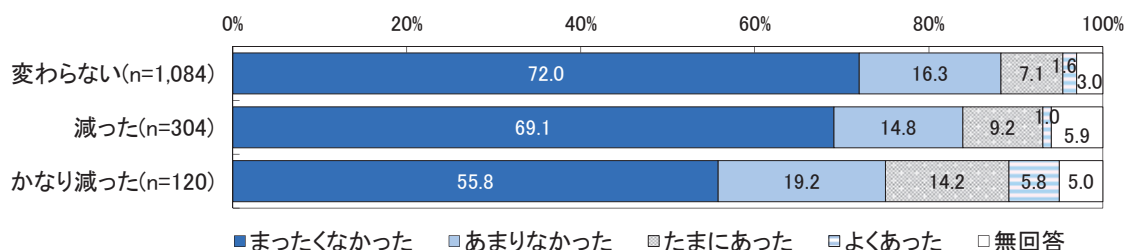
【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（個人的なことを話せる友人とのつながりの変化別）】



新型コロナウイルス感染症の流行による個人的なことを話せる友人とのつながり変化別にみると、個人的なことを話せる友人とのつながりがかなり減った人では、『あった』と回答した人の割合は2割を超えている。



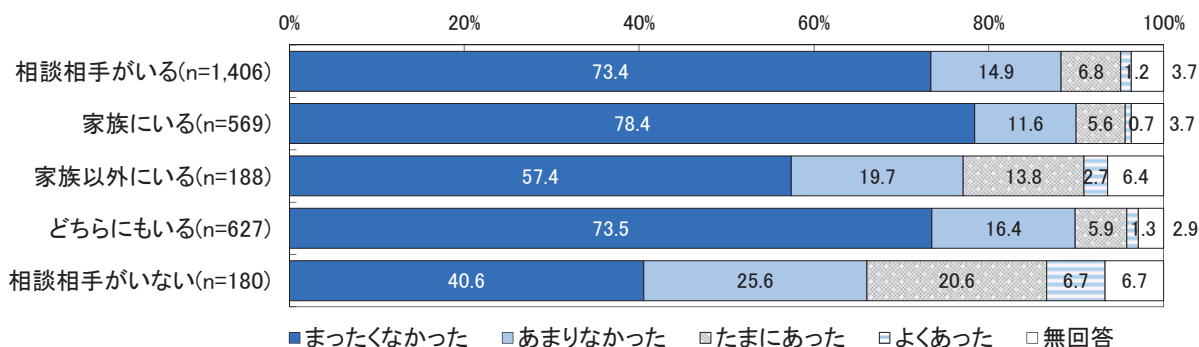
【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（近所の人との交流の変化別）】



新型コロナウイルス感染症の流行による近所の人との交流の変化別にみると、近所の人との交流がかなり減った人では、『あった』と回答した人の割合は2割となっている。

### (5) 相談相手の有無との関係

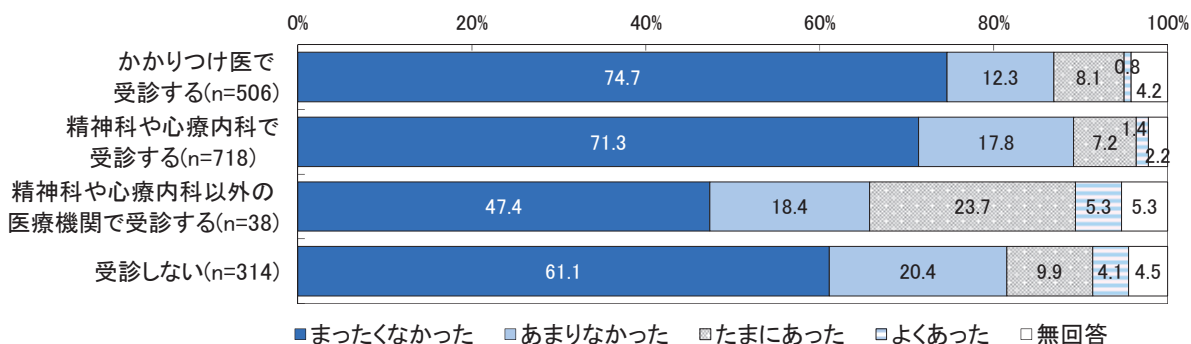
【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（相談相手の有無別）】



相談相手の有無別にみると、相談相手がない人では、『あった』と回答した人の割合は2割台後半となっている。

### (6) うつ病になった場合の医療機関の受診意向との関係

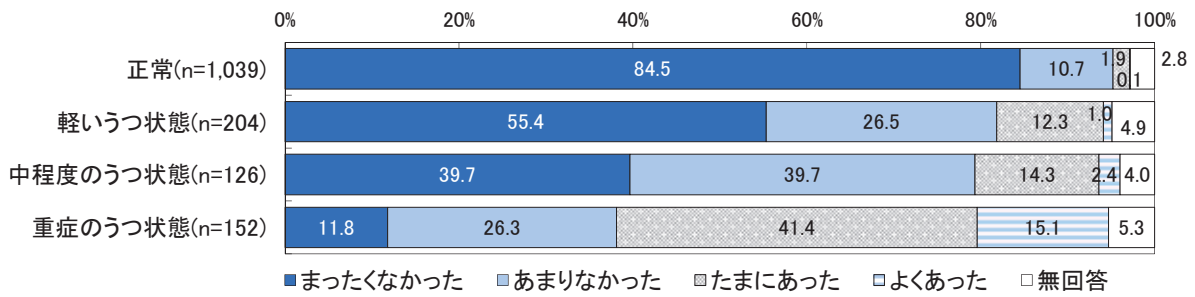
【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（うつ病になった場合の医療機関の受診意向別）】



うつ病になった場合の医療機関の受診意向別にみると、受診しない人では、『あった』と回答した人の割合は1割を超えている。

(7) 抑うつ尺度との関係

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無（抑うつ尺度別）】



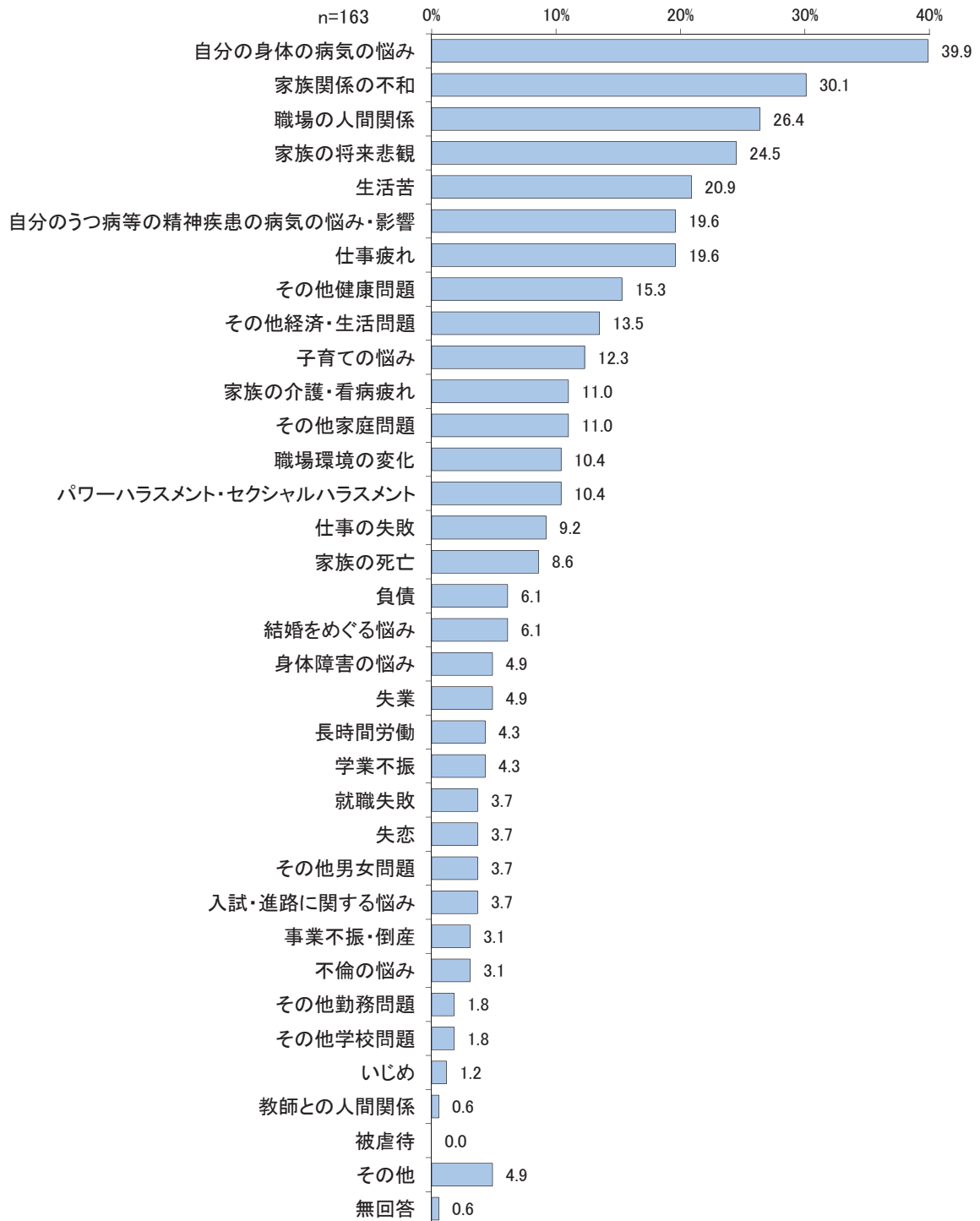
抑うつ尺度別にみると、重症のうつ状態に該当する人では、『あった』と回答した人の割合は5割台後半となっている。

(8) 死にたいと思うほどの悩みやストレスの原因

問 11 で「3 たまにあった」又は「4 よくあった」と回答した人のみ回答

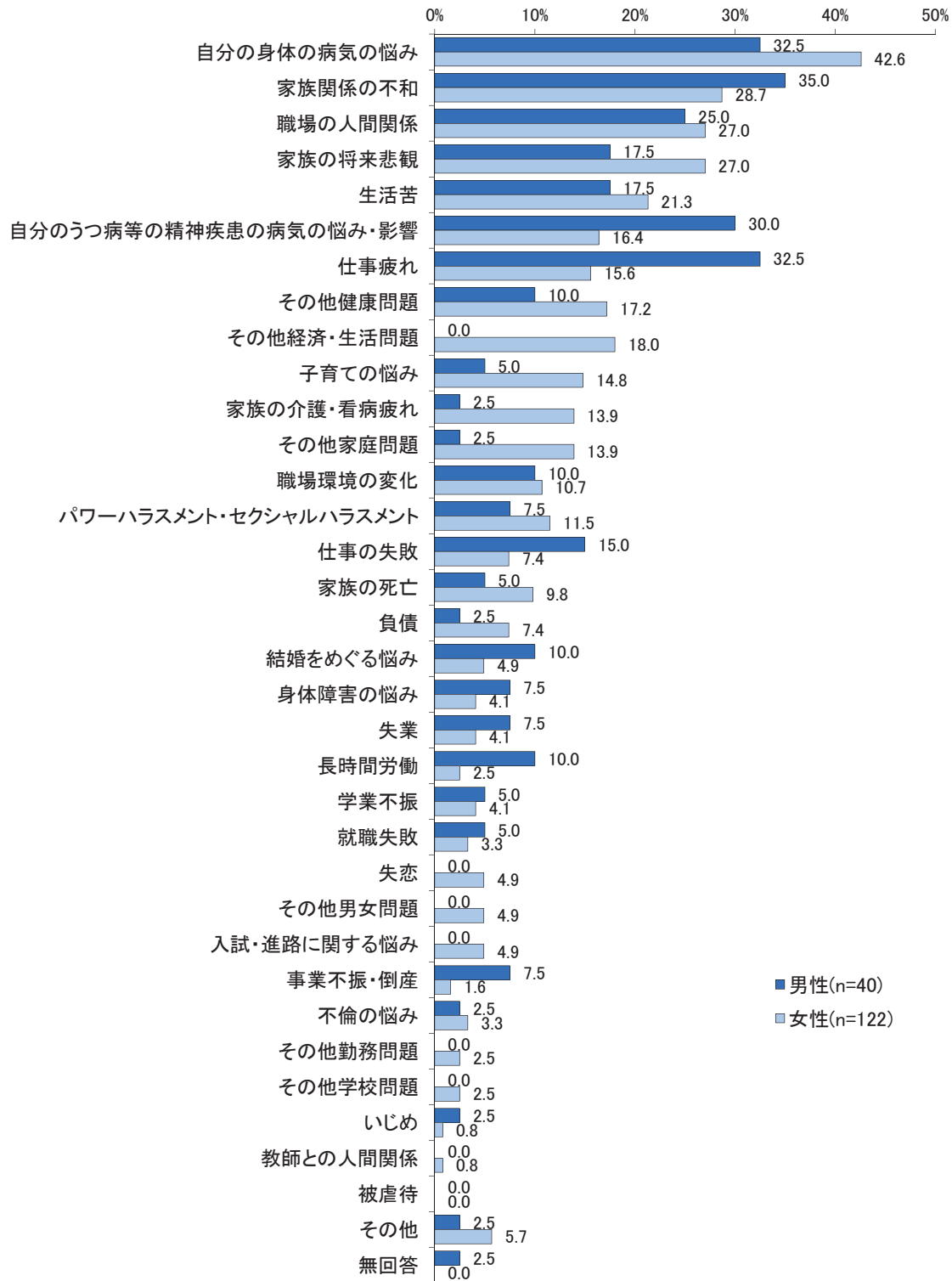
問 12 それは、どのような事柄が原因ですか。(〇はいくつでも)

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの原因】



死にたいと思うほどの悩みやストレスの原因について、「自分の身体の病気の悩み」と回答した人の割合が 39.9%と最も高く、「家族関係の不和」(30.1%)、「職場の人間関係」(26.4%)、「家族の将来悲観」(24.5%)が続いている。

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの原因（性別）】

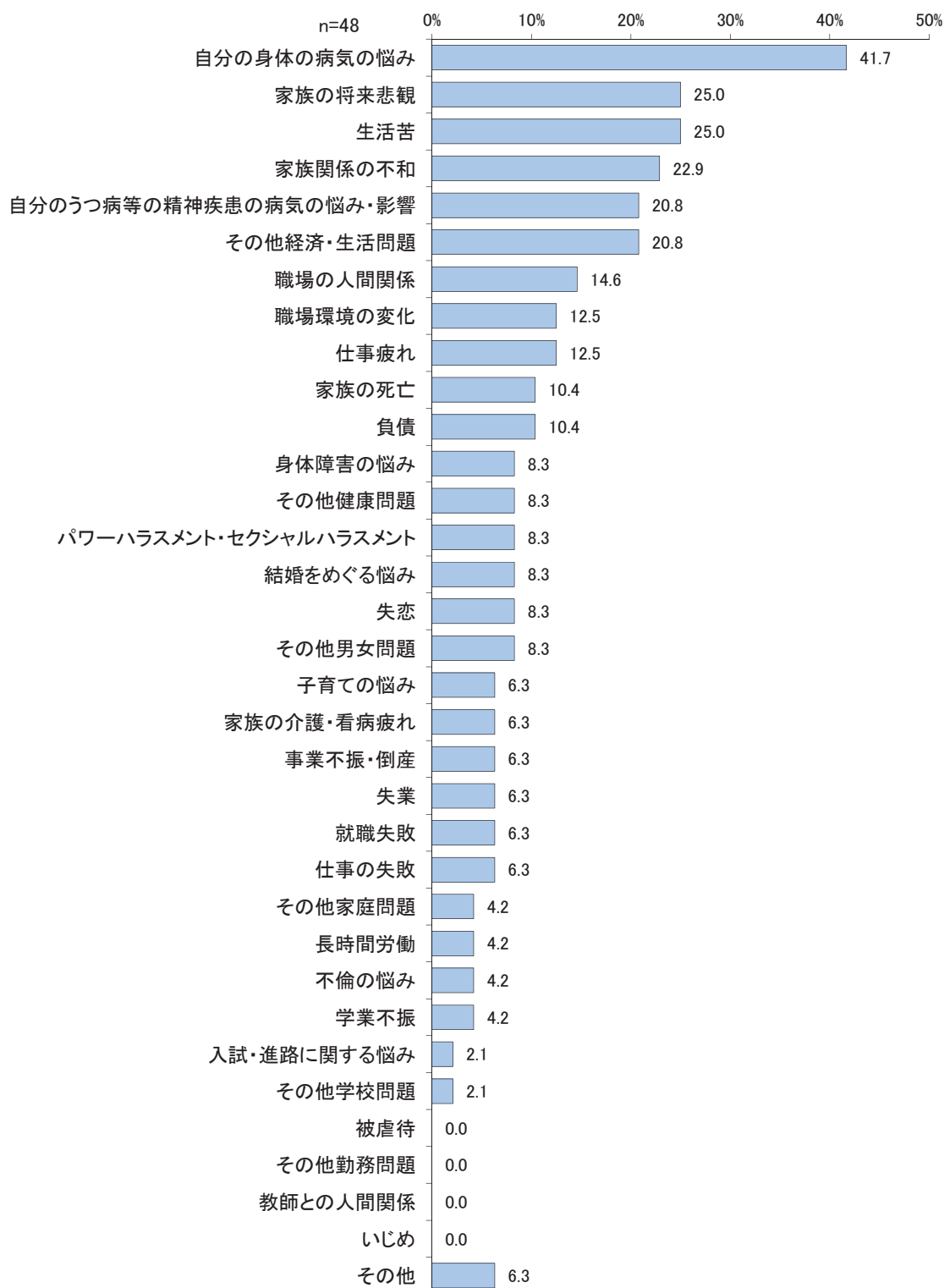


性別にみると、男性では、「家族関係の不和」、「自分の身体の病気の悩み」、「仕事疲れ」、「自分のうつ病等の精神疾患の病気の悩み・影響」と回答した人の割合が3割を超えて上位となっている。

女性では、「自分の身体の病気の悩み」と回答した人の割合が4割を超えて最も高く、「家族関係の不和」、「職場の人間関係」、「家族の将来悲観」が2割台後半で続いている。

【死にたいと思うほどの悩みやストレスの原因（新型コロナウイルス感染症に関係する場合）】

\* 無回答を除いた集計



死にたいと思うほどの悩みやストレスの原因（新型コロナウイルス感染症に関係する場合）について、「自分の身体の病気の悩み」と回答した人の割合が41.7%と最も高く、「家族の将来悲観」、「生活苦」（25.0%）、「家族関係の不和」（22.9%）、「自分のうつ病等の精神疾患の病気の悩み・影響」、「その他の経済・生活問題」（20.8%）が続いている。